【仙台総局】仙台市青葉区上杉1-6-10 EARTH BLUE 仙台勾当台 ☎022-221-9211
【東京本社】港区東新橋2-6-6 汐留AZビル ☎03-5733-2740
【千葉総局】千葉市中央区新田町5-10 わかちく千葉ビル ☎043-203-8171
【水戸総局】水戸市南町2-5-24 榎沢本店ビル ☎029-227-4551
【宇都宮総局】宇都宮市本町9-12 亀田ビル ☎028-622-8111
ホームページアドレス http://www.jcpress.co.jp
メールアドレス jcp-sendai@jcpress.co.jp

宮城 全県版

日刊建設新聞

The Nikkan Kensetsu Shimbun

6月21日土曜日
2025年 第12227号

©日本建設新聞社（令和7年）
〔昭和41年11月16日 第3種郵便物認可〕
日刊（日、月、祝翌日休刊）

発行所
日本建設新聞社
仙台市青葉区上杉1-6-10
電 話022-221-9211
FAX022-216-1051

地球に優しく、環境に融和する
全旋回型立坑構築機 エルモール工法
DAIDO 大道土木株式会社
営業部・工事部 〒989-3121 仙台市青葉区郷六字葛岡下5-23 TEL022-397-6506 FAX022-397-6536
本社 〒983-0003 仙台市宮城野区岡田字八間谷地6-1 TEL022-353-9192 FAX022-353-9193

岩沼に教舎と寮を増設

東北整備局が設計・工事

海上保安学校

海上保安庁の海上保安学校宮城分校（岩沼市）に教舎と寮の増設が計画されている。増設の設計や工事は同庁からの委任を受けて東北地方整備局が発注する。同局は本年度に設計業務を公募型プロポーザル、敷地調査を一般競争入札で委託する。

設計業務は7月にプロポの手続きを公告する予定で、約3カ月かけて成果をまとめる。敷地調査は20日付で入札の手続きを公告しており、8月22日に開札する。

海上保安学校宮城分校は仙台空港の隣接地にあり、ヘリコプターや飛行機の操縦を行うパイロットと、航空機の整備を行う整備士などを養成している。分校の敷地内には校舎や広瀬寮、機体実習室などが設けられている。

敷地内では新たにRC十木造3階建て延べ1299㎡の教舎と、RC十木造3階建て延べ1605㎡の寮棟を建設する計画だ。

設計業務は件名が「海上保安学校宮城分校寮その他（25）設計業務」で、2棟の新築と、既存校舎の内部改修、外構改修について基本・実施設計（積算含む）をまとめる。

敷地調査は件名が「海上保安学校宮城分校（25）敷地調査」で、敷地の測量、地盤調査、磁気探査調査を行う。履行期間は12月19日まで。

入札の参加資格は単体企業か設計JVで、県内に本社があり、東北地方整備局から地質調査業務の資格認定を受けていることなどが参加申請

大和ハウスで設計・施工

二十人町に本店ビル新築

宮城第一信金

宮城第一信用金庫（仙台市青葉区）は、仙台市宮城野区二十人町に本店ビルを新築する。設計・施工は大和ハウス工業（北日本支社・仙台市泉区）が担当。2026年1月に着工し、27年2月の完成を予定している。総工費は約12億8000万円。

本店ビルの建設場所は二十人町305-2で、敷地面積が932㎡。現在は砂利敷きの駐車場となっている。敷地内は高低差があり、北側が少し高い。この高低差を生かすか、もしくは均すかしてS造5階建て延べ23㎡の本店ビルを建設し、駐車場を整備する。

1階に本店、2～5階に本部機能を配置する。5階は大会議室と防災備蓄倉庫を設ける。災害時には帰宅困難者を大会議室に受け入れる。建物は断熱性や省エネ設備の導入などによってエネルギー消費量を50%以上削減する「ZEB Ready（ゼブ・レディ）」の認証取得を目指す。

宮城第一信金によると、二十人町には金融機関の本店がないため、ここに本店を置くことで地域住民らとともに活性化や成長を目指すとしている。

なお、現在の本店は同市青葉区中央3丁目のビルの1～2階を間借りしている。自前の土地と建物を持つことがよいと判断し、本店ビルを建てることにした。

新庁舎の入札は来年1

加美町 建築一式で一括

加美町は20日、矢越地区に移転新築する役場新庁舎の発注時期について、2026年1月に一般競争入札で事業者を選定すると公表した。工種は建築一式工事、概算工事費は30億1000万円。S造一部木造3階建て延べ5500㎡の規模で建設する。

新庁舎は、国道457号と国道347号・町道田川平柳線の交差点北東の敷地1万5629㎡内に建設する。向かいには「クスリのアオキ加美店」がある。建物の基本計画・設計は東北設計計画研究所（仙台市泉区）・E・

【訂正】21日付1面掲載のJSCA東北支部・成田支部長が就任で抱負の記事で、JSCAの正会員資格が構造設計一級建築士の資格とありますが、正しくは「一級建築士」の資格でした。訂正します。

作業者安全モニタリングシステムなど独自の商品を展示した

レンタ
（南東北支
野区）は、
から作業
者安全モニ
テム」な
商品を中心
作業効率を
搬・揚重機
ル「Dia
ナ）、これ
える電動走
イランナー
o」（アポロ
作業者安
ステムは、

JSCA 東北支部

成田支部長が就任で抱負

現場見学の機会増やす

日本建築構造技術者協会（JSCA）東北支部の新支部長に就任した成田諭氏（カメイエンジニアリング代表取締役社長）が19日、インタビューに応じて就任の抱負を述べた。成田支部長は現場見学会や研修会・講習会を数多く開催することに意欲を示した。特にこれからBIM設計が主流の時代になると、現場の収まりまで考えた設計が求められるため、現場見学会が重要になると話した。

成田 諭（なりた さとる）氏

——就任の抱負

JSCAは個人の構造設計技術者の集まり。会員が学びたいと思っていることをアンケートやヒアリングで再度把握し、会員が求める技術的な情報を提供していける支部にしたい。現場見学会や各種講習会・研修会の機会をたくさん設けて必要な情報を提供していく。

——具体的に取り組みたいこと

大きくは5つある。1つ目は「東北各県ブロック委員を基軸とした交流の活性化」。2つ目は「現場見学会と各種研修会の実施」。3つ目は「他支部との情報交流のためのイベント相互派遣」。4つ目は「学生向け出張講座の実施」。5つ目は「学生会員と一般会員の入会促進」。

——東北各県ブロックの交流について

東北各県にブロック長がおり、その方たちとの連携を強化したい。例えば各県持ち回りで共通の講習会や研修会を開くことや、各県のブロックで現場見学会を企画・開催することを考えている。

——現場見学会について

会員の中には設計して終わりという方も多い。自分で設計したものがどのように現場に収まっているのかを見る機会が少ない。そうした方々に実際に現場を見る場を提供したい。見学会の数も増やしていきたい。

——他支部との情報交流について

東北支部が構造デザイン交流会を毎年開催したり、学生を主体としたデザインコンテストを行ったりしている。他の支部でもいろいろなイベントを開催している。イベントの時期に各支部から人を相互に派遣し合って、支部の取り組みをブラッシュアップしていきたい。

——学生向けの出張講座について

建築学を学んでいる高校生、高専生、大学生に向けて構造設計に関する実務の仕事をPRする。現場見学会の時に学生を招いて、実際の現場を見ながら建物の設計の主旨や計算方法を説明することも考えている。

——入会促進について

現在は東北支部の正会員が187人、一般会員が8人、学生会員が2人。構造設計一級建築士の資格を持っている人が正会員になれる。二級建築士で一級建築士にチャレンジしているような構造技術者の方は一般会員となる。若い技術者に支部の活動に参画することで知見を深めてもらいたいと思っているので、一般会員の入会を促進する。学生は入会費も年会費も無料なので特に勧誘する。

——今後の構造設計について

これまでは設計者と施工者が分かれていて、設計図では収まっていても現場に行くと収まらないという問題が起きることもあった。現場の収まりまできちんと考えた設計が成されていたか検証が行き届かないまま施工の側に図面が渡されていることがある。そこで国土交通省が今進めているのがBIM設計であり、設計段階で収まりまで考えられる仕組みを組み込もうとしている。

BIM設計は設計者側と施工者側をつなぐことになるわけだが、構造設計者も現場のことを知る必要が出てくる。これからは設計者として現場の収まりまで考えたかどうかが問われてくるので、現場を知らない設計者は設計ができなくなりそうだ。そういう意味でも現場見学会が大事になってくる。できれば図面がきて現場での作業が始まったが、ここが収まらずにこう変わったという情報も現場で開示してもらえるようになるとよい。

1963年4月30日生まれの62歳。仙台市太白区八木山東在住。本籍地は北海道函館市。函館工業高校を卒業後、1982年にU構造設計に入社。その後、東北工業大学工学部建築学科に入学し、95年3月に卒業。95年4月にカメイに入社。2000年4月から現カメイエンジニアリングに出向。20年4月からカメイエンジニアリング代表取締役社長。

JSCA東北支部では副支部長を2年務めた後、25年6月2日の総会で支部長に就任した。

仙台市
住宅次期
の指定管
ため、要
期間は2
の5年間
から南部
それぞれ
る。対象
の団体か
するグル
7月11日
うえ、同
15日まで
る。11月
指定管
震性能を
東西に大